

室蘭市立地適正化計画骨子(案)住民説明会 | 質疑応答内容

住民説明会について

区分	質問・意見	回答
案内	町内会宛の案内文で3名程度とあったが、住民説明会は広く開かれるべきなので人数制限はするべきでないのでは。	以前の住民説明会の経験から、自由公募だけでは人が集まらないため、町内会にも直接声をかけた。3名限定というわけではなく3名は来てほしいという意味だった。
	商店会あてに市の説明会等の案内が来たことがない。地域の中小のお店にとっては地元のお客さんが主であり、便利なまちにならないと、お客さんが来なくなる。このようにまちづくりと関連が深い地元商店会には真っ先に説明すべきと考える。	今回は個別の団体には案内を送っていなかった。しかし、市民のみなさまには幅広く計画の説明をしたいので、もし声をかけていただけたら個別に説明に伺いたい。
説明内容	説明会に人が来ないというが「立地適正化計画」という名前が市民には分かりづらいからでは。市民に分かりやすい言葉で説明すべき。	これまでも「新しいまちづくり計画」というように言い換えて案内してきたりしているが、もう少し伝わりやすいように努力していきたい。
質疑応答	この住民説明会で市民の意見を聞いたことになるのか。質疑応答の時間も短いと感じる。もっと市民の声を聞く工夫が必要。	—

立地適正化計画について

区分	質問・意見	回答
総論	若い人の意見を取り入れたまちづくりを進めてほしい。	—
	私が調べた限りでは市職員の中には市外に住んでいる人が2割いる。税収が少ない中で、市民にお願いするだけでなく、自分たちの取り組み姿勢や熱意をしっかりと示してほしい。	—
	今後、大型公共施設の建設が多数予定されているが、人口が減少していく中で、本当に維持や管理ができるのか。	市内にある公共施設は、昭和40年代の人口が一番多かった時期に建てられた施設が多く、それらが老朽化して建て替えなければならない状況にある。そうした中で人口規模に合った施設にするため、施設の再編や集約を行いながら、効率の良い維持、管理、運営がしやすい環境を整えると共に、例えば全道大会などが行えることになるなど、市内の経済効果も期待しながら、整備を進めている。
	人口減少と高齢化社会対策については、行政改革の基礎の部分であるが、コンパクトシティとの整合性についてはどのように考えているのか。	行政改革の考えとこの計画の整合性については、どちらについても、人口減少の中でどのように持続可能なまちづくりをしていくかというのが背景にある。これまでも行政改革の取り組みとして、学校の適正配置などの人口規模等に見合った公共施設の統廃合を行ってきたが、本計画についても、行政改革との整合を図りながら、持続可能なまちづくりの推進を図っていきたい。
	このようなまちづくり計画は、これまでも絵に描いた餅になってきたように感じる。説明の中で財源的な話がなかったがどうなっているのか。	今年度中に財源等を踏まえた公共建築物の整備の優先順位や関連計画の財源もお示ししたい。
	他市でのコンパクトシティ政策の成果はあまり出ていないと聞いている。本当に立地適正化計画は役に立つのか。	すでに人口減少により空地や空家の問題がでてきていることはみなさんご承知のことと思う。この計画はコンパクトに集まって便利に暮らしましょうという計画。現在詳細を検討している誘導施策により施設や居住を誘導していきたいと考えている。
	将来的な合併を考えた計画なのか。室蘭市だけの計画なのか。	あくまで室蘭市の将来がどうあるべきかを考えたもの。
	説明の冒頭に人口減少の暗い話から始まったが、室蘭はだめになるという前提で話をしているように聞こえる。もっと夢のある話をしてほしい。	今回は立地適正化計画の説明ということで、どうしても人口減少の話は避けて通れなかった。この計画に並行して都市計画マスタープランの見直しも進めているので、各地区をどのように活性化していくのかという話については、今後、みなさまのご意見を伺っていきたいと考えている。

	25年後に5万5千人になるということで、将来の子どもたちのことが心配だが、報道では人口が増えたりしているまちがあると聞く。そういった先進地に視察に行き勉強してこることも大事なのでは。	いまも転入者の住宅取得費に対する助成金をはじめとした子育て世代への支援をしているが、これからも先進事例などを調査・研究しながら施策を進めていきたい。
現状と課題	高齢化人口を65歳以上としているが、65歳でもまだまだ働いている人も多くいる。70歳以上にするなど、実情に合わせて考え直すべきではないか。	—
	将来人口の予測について、登別市への転出が多いと思うが、そこはおさえているのか。どのように考えて推計しているのか。	実態として登別市への転出が多い事実は承知している。推計は人口問題研究所の発表した数値を用いている。他地域との出入りを個別に計算しているわけではない。
	人口推計について、国の言うとおりに推計すればいいというものではなく、対策を考えていくことが必要なのではないか。	公的不動産を活用して、子育て世帯が求めやすい宅地を供給するなど検討していくが、人口の考え方については、計画策定の決まりにのっとっているの理解していただきたい。
	住宅に関する分析について、空家のグラフは道内比較だが新規着工のグラフは年度の推移となっている。比較できるものなのか。	空家率は住宅土地統計調査という統計調査のデータを用いており、道内の中でも空家が多いということ把握した。新規着工数は市が受けた着工の申請数のデータを用いており、着工数は一定程度あるということ把握した。着工数については他都市と比較するのは難しい。人口が減少している一方で、空家は活用されず住宅の新規着工が続いており、市街地のスポンジ化がさらに進行してしまうことが課題であるとこれらのデータから結論付けた。
	人口密度推計はどのように出しているのか。	国の機関が提供している人口推計ツールを使って、100mメッシュごとに人口密度を推計している。
都市機能誘導区域	蘭東と蘭西の2地区に都市機能誘導区域がある意義をもっと検討すべき。	いまある機能を生かしながら、まちづくりを進めるべきという考えで、蘭東と蘭西の2地区に都市機能誘導区域を設定した。
	室蘭駅周辺地区の都市機能誘導区域のコンセプトは「広域交流の促進と、来街者を迎えるまちの顔としてふさわしいにぎわいの創出」となっているが具体的なイメージを聞きたい。	室蘭駅周辺地区は、フェリーの復活により港の交流が始まったことや、国・道の機関や図書館、科学館など、広域の人が使う施設が集積している地区ということで、この交流を促進してにぎわいを創出していこうと考えている。また、昨年度、地方再生コンパクトシティという国交省が選定する全国32のモデル都市に室蘭市が選ばれ、商店街や図書館などを中心にこの地区を盛り上げていこうという取り組みも同時に進めているところである。

	人口推計では八丁平・中島地区に人口が集積しているようだが、なぜ室蘭駅周辺にも拠点をおくのか。	立地適正化計画の考え方として、1箇所ですべてを集約する計画ではなく、いまあるものをうまく使いながらコンパクトにしていこうという考え方がある。東室蘭駅周辺は、人口も集積しているし商業施設等も充実している。室蘭駅周辺は、人口は少ないが、国・北海道・市の施設が集積しており、また港の玄関口ということもある。これらの広域的に利用されるこの2つの地区に都市機能誘導区域に設定した。
都市機能誘導施策	室蘭駅周辺地区には空きビルが多く、解体するには相当な金額が必要と思うが、空きビルを残したまま計画を進めるのか。	空地や空家が増えるとまちなかの活性化に支障が生じてしまうので、空家や空き店舗の対策も現在進めている。また、使われていない土地の所有者に活用を促すような国の制度もできはじめているが、このような制度は立地適正化計画を作成していることが条件となることも多いので、まずは計画を作成し、制度を活用できる体制を整えておきたい。
	八丁平は人口が増える推計なのだから郵便局などの利便施設をつくってほしい。	毎年要望も受けているので、市としても引き続き要望活動を行っていきたい。立地適正化計画としては、個別の施設のことを記載する計画ではないという趣旨を理解してほしい。
	都市機能を集約するという考えは分かったが、各地区の拠点となる会館などは残してほしい。	この人口減少の中では、市が持っている建築物をいかに適正な規模にして管理していくのかということが大事となる。そのような中で公共施設をみなさんに利用していただくためには、公共交通を便利に利用できる環境が重要となってくる。このため、この立地適正化計画と並行して公共交通の計画の策定も進めているところである。
居住誘導区域	区域外から区域内に居住を誘導する具体的な施策はあるのか。また、区域外に住んでもいいということだが、計画が進めば区域外はどんどん人が少なくなるし、空家や空地も増えていくと思うがどう考えているのか。	居住誘導区域内と外については、住み方の違いと考えており、便利な生活を求めている方には区域内に住んでもらって、子育て世代などは車もあるので、区域外で隣の敷地と合わせて広く土地を使って暮らしてもらおうなど、ライフスタイルに合わせた暮らしを提案できるのではないかと考えている。
	人口が16万人から5万人と1/3になる。それならば居住誘導区域も1/3で良いのではないか。	—
	憲法における居住権と居住誘導区域外の居住の考え方を詳しく示してほしい。	居住誘導区域外だからといって、不動産の売買や居住ができなくなるわけではない。憲法の財産権等については、国でも検討しており、この計画の居住の考えはあくまで誘導なので、財産権の侵害等にはならないと整理されている。
	白鳥台の1丁目と3丁目は住まないでほしいということだが、区域内に転居するにしても、区域外の土地の価格は下がってしまって、処分しようとしてもできない。結果、相続放棄などの問題も増えるのでは。また、ゆるやかに誘導とあるが、区域外に住んでいる方の多くは高齢者で、財産の処分等も考えると時間の余裕もないと思う。	この計画では、いまずぐに居住誘導区域内に住んでほしいという趣旨ではなくて、ライフステージの変化の段階、お子さんとか、お孫さんとかに不動産が渡るときに、もう少し便利な区域に住み替えませんかというような、お願いの意味も含めた誘導であると考えている。区域外については、都市計画マスタープランもこの計画とあわせて見直しを行っているので、どのようなまちづくりをしていくべきなのか検討していきたい。

	居住誘導区域外に住むことが悪いような印象を受けた。区域外にも大勢市民は住んでいるので、この市民のことをどう考えているのか。	居住誘導区域は、将来的にここに住んでいただきたいという範囲を決めたもので、区域外には住んではいけませんとか、行政サービスが受けられなくなりますとかいうものではない。
居住誘導 施策	いまあるリフォーム制度を市外からの移住者だけではなく市民も利用できるようにしてもらいたい。	空家リフォーム制度はすでに市内に住んでいる方が対象となっている。
	空家バンクの活用状況が少ないと思う。市の定住対策は若者に目を向けすぎと感じる。高齢者に優しい制度があれば若者も将来安心できるはず。子どもの医療費無料化など、住民のための施策があれば移住者も増えるはず。また、店舗のリフォーム制度はあるか。	空家バンクは利用が数件で低調ではある。空家リフォーム制度と空き店舗活用助成金と高齢者のバリアフリーはある。
	移住者の中にはボランティアのような生きがいを求めて移住する人もいるようだ。移住相談などがある場合はこのような観点で相談に乗ってあげてもいいと思う。	—
	まち歩きのワークショップに参加したのだが、そのときに出た意見が反映されていない。奇抜なアイデアもいろいろ出ていたはずだが。	具体的な誘導施策については、これから検討していくことになる。奇抜なアイデアになるかは分からないが、いただいた意見を参考に検討を進めたい。
公共交通	室蘭駅周辺と東室蘭駅周辺を将来的にどのように交通をつなぐのか。	立地適正化計画とあわせて地域公共交通網形成計画という公共交通に関する計画を、バス事業者や JR 北海道などと協議して今年度中に策定する予定。その計画の中で不便がないように公共交通の整理をしていきたい。
	バスを乗り換えると費用が倍になってしまうので、乗り換えても負担とならないような制度を考えてほしい。	地域公共交通網形成計画の策定作業の中で、市民アンケート等による利用者の声を踏まえ、交通事業者等とともに効果的な将来の公共交通の姿を検討していく。
届出制度	居住誘導区域の外では、住宅を建築するのに届出が必要となるのか。	個人が、新たに住宅を建てる場合や建て直する場合に届出は不要。届出が必要なのは、事業者等が 3 戸以上の宅地開発した場合や、3 戸以上のアパートを建設する場合など。

緑の基本計画について

区分	質問・意見	回答
公園維持管理	母恋南町公園と母恋公園のトイレはきれいになったのだが、中央町小公園のトイレはとても汚い。市外から来た人も使うトイレなので何とかしたほうがいい。	定期的な清掃を行っているが、今後は日常点検を密に行っていく。
公園整備	室内向けの遊び場に力を入れているようだが、やはり子どもは外で遊ぶのが大事なので、公園の遊具などを充実させてほしい。公園は畑など何をやってもいいというわけではないので使用の制限はしっかりしてほしい。	パトロールは定期的に行っている。公園の整備は地域ごとのニーズをとらえて整備していきたい。
緑地維持管理	新富町の夢の森で植樹活動が行われているがその樹木が鹿の被害にあっている。また民家の畑でも被害が出ている。緑の基本計画の中で対応できないか。	—

本庁舎について

区分	質問・意見	回答
建設地区	もう蘭西地区に固執することから卒業してもいいのでは。国・道の機関が蘭西にある経緯はわかるが、国・道の施設は室蘭市民だけのものではない。他の市町村からみれば、室蘭市がそれらを私物化しているように見られる。	—
	室蘭駅周辺地区に本庁舎の候補地が多いというが、具体的にどここの地域のことか。	現在の本庁舎の敷地内、広域センタービルの敷地内、入江地区の市の遊休地などが候補地となっている。
	20年後も胆振総合振興局はあると考えているのか。	本庁舎建て替え地区の考えの中では、現在ある施設はその段階でもあると想定している。
	市役所は室蘭駅周辺が候補というがそんなに簡単に土地が見つかるのか。	土地の観点だけでなく他の観点も含めて総合的に判断した。
	東室蘭駅周辺に人口が集積するという将来推計となっているが、なぜ室蘭駅周辺に本庁舎を建設するのか。	確かに現在もそうだし、将来も東室蘭駅周辺の方が人口は多い。その意味では東室蘭駅周辺の方が優位だが、敷地の問題や他官庁との連携の問題など、総合的に判断して室蘭駅周辺が適当だと判断した。
	市役所本庁舎の建て替え地区は室蘭駅周辺としているようだが、大雨や大雪のときは、白鳥大橋や室蘭新道が機能しなくなることがある。また、JRの存廃の心配もある。やはり人口が集積している東室蘭駅周辺とすべきではないか。	災害時の考え方としては、まず災害対策本部をどこに設置するかということが重要だが、ケースバイケースで室蘭駅周辺の本庁舎、東室蘭駅周辺の消防本部というふうに使分けができると考えている。もちろん人口集積度も検討のひとつとして加味しているが、総合的には室蘭駅周辺の方が優位という結果になった。また、室蘭駅周辺と東室蘭駅周辺の2地区を拠点と考え、広域的に人を集めることで、鉄道の利用者も増えるのではないかとことも期待している。
	本庁舎は、人口集積が見込まれる東室蘭駅周辺ではなくて室蘭駅周辺に建設する予定だということだが、なぜそうなのかということをも市民に分かりやすく説明すべき。	—
建設時期	本庁舎の建て替えのタイミングについて、具体的な時期が示されていないが、早く建てられないのか。	本庁舎の建て替え時期については現段階では決まっていないが、今年度中に大型公共施設の建て替え計画とともに優先順位なども示していく予定。
跡地活用	本庁舎の建て替え後の跡地の活用は検討しているのか。	建て替えは室蘭駅周辺の、現在の本庁舎の敷地、広域センタービルの敷地、入江地区の遊休地などを検討しているが、具体的な場所は決まっていない。具体的な場所が決まり次第、跡地活用も含めてお示ししたい。

総合体育館について

区分	質問・意見	回答
建設地区	入江運動公園内に体育館を建設すると交通が不便になる。	現在、立地適正化計画と合わせて、地域公共交通網形成計画を策定しているところ。この中で新たなまちづくりに合わせた効果的な交通網形成の考え方を検討していく。
	体育館は、人口集積が見込まれる東室蘭駅周辺ではなくて室蘭駅周辺に建設する予定だということだが、なぜそうなのかということをも市民に分かりやすく説明すべき。	—
整備内容	体育館を室蘭駅周辺に移転することだが、現在の体育館にはジムがないし、サンライフのジムは混んでいる。移転するにあたり、ジム機能を東室蘭駅周辺に検討してほしい。	新しい体育館ではトレーニングジムの整備を計画しているので、こちらを利用してほしい。サンライフが混んでいることについては、体育館の計画の際に参考にさせていただく。
	伊達市に立派な体育館があるが、室蘭市の新しい体育館の規模はどの程度になるのか。中途半端な施設をつくっても人は来ない。多少事業費がかかっても魅力的な施設をつくることできれば、人が多く来るはずなのでその事業費分を回収することができる。	基本計画のなかで、室蘭市に必要な規模というのを考え延床面積を 7950 m ² としている。現状は 6287 m ² 。
跡地活用	総合的な判断で体育館を室蘭駅周辺地区に移転することだが、当然、現体育館の跡地利用についても検討していることと思う。いつ、何に使われる予定なのか。	立地適正化計画には具体的な跡地の活用方法等は記載しないが、現在、市内のスポーツ全般のあり方を示す計画を準備しており、その中で総合的に判断していきたい。
	体育館の建て替え後の跡地の活用は検討しているのか。	現在、市内のスポーツ施設全体の配置を検討しているところで、現体育館がある中島公園内の市営球場も検討の中に入っている。市営球場のあり方も含めて体育館跡地の活用についても検討していきたい。
スポーツ機能集約	なぜスポーツ機能を集約するという話なのにサッカー場は祝津に移転するのか。	入江運動公園に体育館を移転すると、敷地が狭くなるので、アップの場所を確保できないなどサッカー場の敷地としては適さなくなる。また、天然芝の老朽化により、養生の期間により利用期間が限定されるという問題を抱えていたが、祝津公園に移転し人工芝化することで養生が不要となりこの問題を解決することができる。
	スポーツ施設の集約については、全国大会などが開催され、室蘭に多くの人に来るようになることを願う。	—